まちの史跡めぐり

新原海軍炭鉱の雑誌『新原』（5）

181

町文化財専門委員　石瀧豊美

平成12年（2000年）9月発行分の『広報すえまち』398号に掲載した「まちの史跡めぐり」第42回のタイトルは「旧炭鉱住宅の町名―昭和4年には36もあった」です。雑誌『新原』昭和4年（※第6巻）6月号に「町総代任命」（左頁参照）という記事があり、89人の名前が並んでいます。今でいえば、地域の組長さんやお世話役といったところでしょう。その記事に挙がっている町名を数えると、36ありました。

※第6巻…昭和4年（1929年）に発行された雑誌『新原』

ところで、雑誌『新原』昭和4年（第6巻）3月号には「第五坑町名頌歌」（左頁参照）が掲載されています。これによって、海軍炭鉱従業員の居住区域の町名が、「御大典」の記念に名づけられたことがわかりました。頌歌の一番に「大君の御典」とあるのがそれで、昭和天皇即位の式典のことです。

今年は平成最後の年、5月1日に新天皇が即位され、元号も改まります。この機会に昭和の御大典をふりかえってみましょう。

京都御所で即位の礼が行われたのは昭和3年（1928年）11月10日。即位にあわせて行われる大嘗祭（天皇が神に新穀を捧げる行事）では、悠紀田が滋賀県野洲郡三上村、主基田が福岡県早良郡脇山村となり、新米が納められました。悠紀田は「京都以東以南」、主基田は「京都以西以北」から選定されます。

御大典にあわせて、行政や民間でもいろいろな事業を行いました。福岡市立馬出小学校には象の顔が向かい合ったモニュメントがあります。これは、この地にあった福岡市動植物園は昭和天正門の門柱が保存されたものです。この動植物園は昭和8年（1933年）8月、東公園に開園しました。

また、福岡市東区箱崎の福岡県立図書館は昨年、開館百周年を迎えましたが、大正天皇御大典の記念（御即位記念事業）に大正7年（1918年）、現在の中央区天神に開館したものです。

さて、海軍炭鉱でも御大典の記念に、第四坑から第六坑まで、合わせて36の町名が設けられましたが、ことさらにめでたい名前が付けられたということが、次の歌からわかります。第五坑の権丈さんが作詞し、10番までに第五坑の17の町名を詠み込んでいます。雑誌『新原』では、傍点が付されていますが、引用では町名部分を太字にしました。また、わかる範囲でふりがなを付けています。

七・五を四回くり返す歌の形式を今様と言います。たとえば「いろはにほへと（色は匂えど）」のいろは歌がそうです。有名な黒田節「酒は飲め飲め、飲むならば」も形式は今様で、福岡では特に筑前今様と言います。福岡の勤王家加藤司書や平野国臣の作品が知られています。

第五坑町名頌歌

権丈生　第五坑

一、天津日嗣の大君の
　御典祝はん記念とて
　祝ひ寿ぐ町名をば
　定められしぞ芽出度けれ

二、坑口後に正門を
　出れば並ぶ軒並の
　此処ぞ五坑の墓なる
　名も其のまゝに**元町**区

三、開坑以来二十年
　いそしみ励む人々の
　光を添えて今も猶ほ
　其の名輝く**錦町**

四、**大和**の国に名も高き
　薫りゆかしき**此の花**は
　雲かと見えて白妙の
　衣の袖に匂ふめり

五、花にあけたる**曙町**
　君が御代をば百歳や
　千歳を寿ぐ**竹園**は
　幾代久しく繁るなり

六、九十九折りなす坂道を
　登れば南区**弥生**町
　春は霞の棚引きて
　菜種咲く野の美しさ

七、鶴と亀とに因ある
　蓬莱町や**日の出**町
　秋の三五（十五夜）の名月に
　飽かぬ眺めの**月見**町

八、**春日**の町は何処ぞと
　仰げば尊き**栄町**
　並べる家も賑やかに
　昌えて今は数十戸

九、夕べ楽きまどいにも
　幾千代かけて**高砂**の
　尾の上の松の深緑
　雛鶴ゆかし**相生**町

一〇、吾等の守り山つ神
　祭る社は神さびぬ
　祝へ諸人諸共に
　吾等の町の寿を

昭和4年（第6巻）6月号から町名の一覧を採録すると、次のとおりです。「東雲町・錦町」が2か所にあることが注意を引きます。（人名は略します）

町総代任命

一般従業員より選挙の結果、四月二十六日左の通り町総代任命せらる

記

（第四坑）
平和町
永楽町
文化町
山神町
蔵前町
北本町一～三
有明町一～四
高台町一～四
富士見町一～四
東雲町一～三
池上町
林町一～四
浦田
神明町

（第五坑）
栄町
相生町
高砂町
尾ノ上町
春日町
蓬莱町
元町
錦町
大和町
此花町
曙町
千歳町
竹園町
幾世町
弥生町
月見町
日ノ出町

（第六坑）
東雲町一～六
喜多町一～十二
皆美町一～六
錦町一～十
仲之町一～四

画像はイメージです